

試験研究成果普及情報

部門	花植木	対象	普及
課題名：播種期及び加温と電照による鉢物トルコギキョウの開花促進技術			
[要約]鉢物用トルコギキョウ品種「サファイアブルー」は、10月上旬に播種し、最低夜温15℃で加温し、4.5号鉢に鉢上げ直後から4時間の電照処理（日長延長）を行うことで、5月上旬に開花させることができる。			
キーワード トルコギキョウ、サファイアブルー、開花促進、鉢花			
実施機関名	主 査 農業総合研究センター・生産技術部・花き緑化研究室 協力機関		
実施期間	2007年度		

[目的及び背景]

本県の主要な鉢花であるシクラメン栽培の後作として有望な品目選定が求められている。そこで、トルコギキョウの鉢物用品種に着目し、高品質な鉢花生産のための技術を開発してきた。今後、高単価を目指した早期出荷体系の確立が重要となることから、5月上旬の出荷に向けて、播種時期、鉢上げ後の加温程度・電照処理が生育・開花に及ぼす影響を検討する。

[成果内容]

- 1 同一夜温管理では播種期が早い方が、同一播種期では夜温が高い方が早く開花し、開花には、夜温 > 播種期 > 電照処理の順に影響が大きい（表1）。
- 2 電照処理の効果は、12℃管理より15℃管理が高いが、いずれも鉢上げ直後（本葉4枚展開時）から電照することが有効である。
- 3 播種期、加温程度、電照処理による生育・草姿への影響は少なく、ボリュームがあり、品質の高い鉢物が生産できる。
- 4 10月上旬に播種し、最低夜温15℃で加温し、鉢上げ直後（本葉4枚展開時）から電照すると、5月上旬の「母の日」前に開花させることができる。

[留意事項]

- 1 早播きと電照処理でやや徒長する傾向があるので、3月後半以降、温度が上昇してきたら十分に換気し、電照を終了する。
- 2 生育後半は、灰色カビ病やアザミウマ類の発生が多くなるので栽培環境に十分配慮し、防除に努める。

[普及対象地域] 県下全域

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

表 1 播種時期、加温及び電照が鉢物トルコギキョウの生育・開花に及ぼす影響

播種日	処理区		草丈 (cm)	株張り (cm)	着蕾数	節数	地際 枝数	中上位 枝数	開花日
	最低 夜温	電照開始 時期							
10月6日	12	定植直後	30.8	28.8	120.6	8.8	6.0	11.3	5月17日
		定植2週後	28.6	27.7	110.6	8.7	6.0	10.8	5月19日
		定植4週後	28.4	27.0	113.8	8.7	5.6	10.8	5月18日
		無電照	30.1	29.6	120.9	9.8	6.2	11.3	5月24日
	15	定植直後	29.0	30.7	113.9	8.5	6.5	10.6	5月03日
		定植2週後	30.8	30.4	111.9	8.6	5.8	11.6	5月07日
		定植4週後	29.5	29.5	112.8	8.8	5.7	9.6	5月10日
		無電照	28.8	30.9	87.1	9.3	5.9	10.9	5月08日
10月18日	12	定植直後	29.2	28.2	122.2	8.1	6.3	10.2	5月20日
		定植2週後	29.4	28.1	117.0	8.6	6.1	11.0	5月22日
		定植4週後	31.1	28.0	120.4	9.3	6.0	11.5	5月25日
		無電照	29.0	28.9	108.1	9.3	6.2	10.9	5月29日
	15	定植直後	29.9	29.4	116.6	8.2	5.9	9.8	5月11日
		定植2週後	30.0	28.8	106.2	7.9	5.9	10.1	5月12日
		定植4週後	29.3	29.4	89.5	8.1	5.7	9.6	5月12日
		無電照	28.3	29.4	106.9	8.4	6.0	10.3	5月15日
11月2日	12	定植直後	27.9	27.6	105.8	8.2	5.9	9.7	5月26日
		定植2週後	28.1	29.0	109.8	8.3	6.0	10.1	5月27日
		定植4週後	29.0	28.1	106.6	8.6	5.8	9.5	5月30日
		無電照	28.2	28.3	102.8	9.0	6.3	9.7	6月01日
	15	定植直後	26.8	26.1	93.8	7.3	5.7	9.5	5月18日
		定植2週後	27.9	27.0	93.0	8.2	5.2	9.4	5月20日
		定植4週後	28.8	27.4	97.9	8.1	5.9	10.2	5月21日
		無電照	27.8	28.0	97.7	8.6	5.5	9.3	5月25日

注 1) 鉢上げ日:播種日の順に平成18年12月15日、12月27日、平成19年1月11日
 基肥は、マグアンプK中粒(6-40-6)を培土1L当たり3g
 追肥は、窒素成分60ppm(20-20-20)の液肥を、10日に1回、開花まで施用
 またプロミック小粒(12-12-12)を鉢上げ後1か月おきに2回、1鉢当たり3粒ずつ施用

2) 電照は、午後10時までの約4時間の日長延長

3) 地際枝数は、地際から発生している側枝数、中上位側枝数は、それより上位節から発生している側枝数

[発表及び関連文献]

平成19年度生産技術部試験成績書(予定)

[その他]